



そこはかたなく金木犀の香りがただよいく頃となりました。今月号も最新トピックスをお届けします。

国内動向▶▶▶▶▶

① 第一種特定化学物質・監視化学物質との構造類似物質の検出ツールを更新（NITE）

8月29日、NITEは「少量新規化学物質における分解性・蓄積性の評価フロー」に従った事業者による化学物質の自主的評価を支援するためのWEBページにおいて、「第一種特定化学物質・監視化学物質との構造類似性を検出するOECD QSAR Toolbox用のツール（一特/監視類似物質検出ツール）」を更新し、POPs条約新規廃絶対象物質（クロルピリホス、中鎖塩素化パラフィン、長鎖PFCAとその塩、長鎖PFCA関連物質）を追加した。

[もっと詳しく☞](#) [NITE（少量新規化学物質における分解性・蓄積性の評価フロー）](#)

② ラベル・SDS対象物質の削除等に関する改正省令を公布（厚生労働省）

9月19日、厚生労働省は労働安全衛生法に基づくラベル表示・SDS対象物質の削除等に関する省令・告示・指針の改正を公布し、同日に適用された。今回の改正により、令和9年4月1日施行予定分からステアリン酸ナトリウム及びびりん酸トリフェニルが削除される。併せて、令和6年改正告示で濃度基準値の適用予定であったりん酸トリフェニルを告示・指針からも削除した。これにより、同物質に係る測定方法や濃度基準値の規定も削除される。

[もっと詳しく☞](#) [厚生労働省（労働安全衛生規則の一部を改正する省令等の施行について）](#)

③ 化学物質審議に係る3省合同会合を開催（厚生労働省・経済産業省・環境省）

9月19日、「令和7年度第5回薬事審議会化学物質安全対策部会化学物質調査会」、「令和7年度化学物質審議会第2回安全対策部会」及び「第257回中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会」の合同会合が開催された。第一種特定化学物質に指定することが適当とされたクロルピリホス、中鎖塩素化パラフィン（MCCP）並びに長鎖ペルフルオロカルボン酸（LC-PFCA）とその塩及びLC-PFCA関連物質が使用されている製品で輸入を禁止するものの指定等について議論された。

[もっと詳しく☞](#) [経済産業省（令和7年度化学物質審議会第2回安全対策部会）](#)

④ GHS対応モデルラベル・モデルSDSの情報を更新（厚生労働省）

9月10日、厚生労働省「職場のあんぜんサイト」のGHS対応モデルラベル・モデルSDS情報について、新たに135物質の情報が追加され、140物質の情報が更新された（計275物質の更新情報を掲載）。

[もっと詳しく☞](#) [職場のあんぜんサイト（GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報＞更新情報）](#)

海外動向▶▶▶▶▶

① 国連GHS改訂第11版を公開（UNECE）

国連GHS改訂第11版の英語版、仏語版及びスペイン語版がオンラインで公開された。

[もっと詳しく☞](#) [UNECE（Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals \(GHS Rev. 11, 2025\)）](#)

② REACH認可対象物質候補リストへの3物質の追加を提案（ECHA）

欧州化学品庁（ECHA）は、高懸念物質（SVHC）としてビスフェノール類2物質を含む3物質についてREACH認可対象物質候補リスト（Candidate list）への追加を提案し、10月16日までの意見募集を開始した。

[もっと詳しく☞](#) [ECHA（Substances of very high concern identification）](#)

③ 化学物質データベースに法規制情報を追加（ECHA）

9月16日、ECHAは化学物質データベース「ECHA CHEM」を拡張し、REACH規則、EU飲料水指令、CLP規則、POPs規則における規制対象物質等に関する情報を組み込んだ。

[もっと詳しく☞](#) [ECHA（ECHA CHEM now includes regulatory data on chemicals）](#)

特集：EU CLP 規則の最新動向

～PMT/vPvMの分類について～

本号では、EUのCLP規則を修正する欧州委員会委任規則((EU) 2023/707) で新たに追加された危険有害性クラスのうち、「残留性、移動性、毒性 (PMT)」及び「極めて高い残留性、極めて高い移動性 (vPvM)」について紹介します。

PMT/vPvM の分類基準

CLP 規則における残留性 (P/vP)、移動性 (M/vM) 及び毒性 (T) の基準を下表に示します。P/vP 及び T の基準は REACH 規則の PBT 及び vPvB 評価に用いられている基準とほぼ同じですが、CLP 規則の T の基準では内分泌かく乱作用が追加されています。移動性 (M/vM) については、[2023 年 7 月号](#)でも解説しましたが、log K_{oc} (土壌吸着係数) 等に基づき評価されます。

Persistence	P基準	vP基準
媒体	半減期 (日)	半減期 (日)
水(海水)	> 60	> 60
水(淡水/汽水)	> 40	> 60
底質(海水)	> 80	> 180
底質(淡水/汽水)	> 120	> 180
土壌	> 120	> 180

(表中のいずれかの基準を満たす場合)

Mobility	M基準	vM基準
Log K _{oc} (土壌、汚泥、底質)	< 3	< 2

Toxicity	T基準
生態毒性 慢性NOEC又はEC ₁₀	< 0.01 mg/L
発がん性	Category 1A, 1B
生殖細胞変異原性	Category 1A, 1B
生殖毒性	Category 1A, 1B, 2
特定標的臓器毒性(反復)	Category 1, 2
内分泌かく乱作用	Category 1

(表中のいずれかの基準を満たす場合)

PMT/vPvM の分類に利用可能なデータ

PMT 及び vPvM の分類に利用可能なデータについて、[CLP 分類ガイダンス Part 4 : Environmental Hazards and Part 5 : Additional Hazards](#) に解説されています。ここでは移動性 (M/vM) の評価に利用可能な情報の例を示します。

- 吸着/脱着試験の結果
 - ・OECD TG106 (吸着-脱着 バッチ平衡法)
 - ・活性汚泥試験 (OPPTS835, 1110 及び ISO18749)
 - ・OECD TG121 (K_{oc}測定 HPLC 法)
 - ・OECD TG312 (土壌カラムでの浸出) 等
- 適合性と信頼性が合理的に実証できる場合、浸出試験からの情報などその他の情報
 - ・フィールド調査/ライシメーター試験結果
 - ・モノスライシメーター試験
 - ・(Q)SAR 等による K_{oc}値推定結果 等

お知らせ

○本機構の林職員らが執筆した論文が学術誌The Journal of Toxicological Sciencesに掲載されました！

Estimation of intravenous TTC (TTCiv) for Extractables and Leachables (E&Ls) by applying a modifying factor based on the blood concentration predicted by open-source PBPK model

📄 <https://doi.org/10.2131/jts.50.471>

○ケミカルマテリアルJapan2025 化学物質管理ミーティングに出展します！

11月27日(木)、28日(金)に東京ビッグサイトで開催される[化学物質管理ミーティング](#)に出展します。化学物質管理にフォーカスした国内唯一のビジネスマッチングイベントです。CERIは、出展社プレゼンテーション、ブース内ミニセミナーにおいて、化審法・安衛法・農取法等に対応した安全性試験、SDS・ラベル作成、*in silico*毒性予測、PFAS等の第一種特定化学物質の分析、製品リスク評価等の支援メニューを紹介します。是非お立ち寄りください！

○東京科学大学CERI寄附講座（後期）が開講されます！

📄 [東京科学大学 CERI寄附講座](#) (11月1日(土)より後期講座を開講予定 (全7回14講座))

ご質問等ございましたら、以下の連絡先までお気軽にお問合せください。

CERI 一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

安全性評価技術研究所 評価事業部

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル7F

Tel: 03-5804-6136 (担当：福島、多田)

URL: <https://www.cerij.or.jp> E-mail: cac-reach@ceri.jp